

第2回盛岡地区新設高等学校統合検討委員会 議事録

期 日 令和4年9月1日(木)
時 間 午後1時30分～午後2時47分
会 場 岩手県立不来方高等学校 第一会議室

1 開会 (事務局担当校 不来方高校副校長 菊池由美子)

2 委員長挨拶 (委員長 清川義彦)

- ・6月にこの統合検討委員会を設立した。
- ・新設高等学校に入学してくる生徒の可能性を広げ、個性を伸ばせる学校づくりのために、慎重に丁寧に議論を進めていく必要がある。
- ・委員の方々には、それぞれの立場から忌憚のない御意見を賜りたい。

3 報告 (進行 委員長 清川義彦)

(1)校名公募実施結果について (盛岡南高校副校長 村山薫美)

- ・資料を読み上げて報告。
- ・地域的にも年齢的にも幅広く応募があり、新設高等学校への関心の高さがうかがえた。

(2)統合課題検討小委員会について (盛岡南高校副校長 村山薫美)

- ・資料を読み上げて報告。
- ・(和田委員) 最近は制服が多様化している。新設校では女子のスラックス導入を検討するのか。

<回答>(盛岡南高校村山副校長) 時代の流れを汲んで、小委員会でも女子のスラックス導入が話題になり、検討している。制服を作るか作らないかの検討も行っている。今後は必要に応じて業者を交えて検討する。

- ・(和田委員) 制服の選定には中学生からアンケートを取る等、希望やアイデアを聞くことを検討してもらいたい。

(3)教育内容検討小委員会 (不来方高校副校長 菊池由美子)

- ・資料を読み上げて報告。

4 協議 (進行 委員長 清川義彦)

(1)設置学科・学系(案)について (不来方高校副校長 菊池由美子)

- ・資料を読み上げて説明。
- ・二つの案の相違点は、生徒自身が体育・スポーツの学びの中で何に重点を置くかを決定する時期であり、A案は高校2年進級前、B案は高校入学前となる。
- ・両校の教育課程を比較した結果、普通科でも、現在の盛岡南高校体育科と同程度の体育に関する単位数を確保できると分析している。

(伊藤委員) 盛岡南高校体育科と普通科体育コース、並びに不来方高校体育学系で、高校卒業後の進路の違いはあるのか。

<回答>(盛岡南高校川戸副校長) 令和4年3月卒業生では、普通科体育コース卒業生40名のうち、大学進学者が19名、そのうち体育系には4名が進学した。体育科卒業生26名のうち、大学進学者が13名、そのうち体育系には5名が進学した。令和3年3月卒業生でも大きく変わらない。高校卒業後の進路において普通科体育コースと体育科とでは大きな差は無い。

<回答>(不来方高校藤枝副校長) 令和4年3月卒業生では、体育学系卒業生40名のうち、大学進学者が27名、そのうち体育系には12名が進学した。進路先は盛岡南高校と大きな差は無い。

(紀代理[盛岡市教育長多田委員の代理]) 盛岡南高校の普通科体育コースと体育科の生徒に対して、自分が所属するコースまたは科を選んだ理由のアンケートなどを行っているのか。

<回答>(盛岡南高校川戸副校長) アンケートなどは行ってない。なお、盛岡南高校の体育に関する学びの特徴として、普通科体育コースと体育科では、体育の単位時間数が異なることが挙げられる。いずれにも体育に関する座学の授業もあり、いわゆる「支えるスポーツ」についての学びもある。学びの内容については、一定の評価をいただいていると考えている。

(石川委員) 中学校現場の見解としては、不来方高校体育学系、盛岡南高校普通科体育コース・体育科の違いを生徒に説明するのが難しい。体育の学びを区別するなら、その違いを明確にしてほしい。

(伊藤委員) 矢巾北中からはどちらの高校も近く、卒業生の三分の一程度はどちらかの高校に入学している。専門的な学びを希望する生徒も多く、B案が良いと考える。

(浅沼委員) 私は盛岡南高校の卒業生で、当時は普通科体育コースがなく、体育科のみであった。私自身が盛岡南高校の普通科体育コースと体育科の違いがよくわからない。今回のA案、B案に関してもよく分からないのが本音であるが、体育の専門コースは残してほしい。

(小岩委員) 資料を見ただけでは違いがよく分からなかったが、事務局の説明で少し理解は深まった。県民や中学生にきちんとした説明ができるよう違いを明確にしてほしい。

(沢田委員) 盛岡南高校、不来方高校、それぞれの学校の良い点を取り入れてほしい。

(阿部委員) 盛岡南高校は東北初の体育科設置校である。全国大会での活躍や専門分野で頑張りたいと願って体育科に入学したがかなわなかった生徒、考えていたものとは違うと感じる生徒もいる。そうした生徒に新しい学び、多様な学びを考えていかなければならない。入学前に目標を決めてまっすぐに突き進むことも大切だが、入学後の学びを通じて、生徒自身が入学後に目標を修正できるカリキュラムも考えたい。

(和田委員) 中学生のニーズに合わせた学校、願いを実現できる学校となることを期待している。

(女鹿委員) 保護者から見ると、中学生は学系や学科を意識していないように感じる。中学生にとって理解しやすい特徴を持った学校になってほしい。

(工藤委員) A案とB案の違いが分からないので判断が難しい。社会的には多様化しているので、より専門的なB案があってもいい。また、「支えるスポーツ」、「生涯スポーツ」に関わる教育を行うことも魅力的な学校づくり、人材づくりにつながると思う。

- ・委員の意見を参考に、教育内容検討小委員会でさらに議論を深め、次回提案することを確認。

(2) 学校教育目標（案）について（不來方高校副校長 菊池由美子）

- ・資料を読み上げて提案。
- ・校訓と教育目標は切り離すことができないため、関連付けながら策定する。
- ・校訓が「不易」を担い、学校教育目標が「流行」を担うのが適切であるという考えで策定する。

(和田委員) この委員会で学校教育目標を決定するのか。

<回答>(不來方高校菊池副校長) ここで決定するのは、学校教育目標に関する委員会の意見。今後の情勢の変化等で学校教育目標の修正はありうる。

(和田委員) 小中学校では児童生徒や教職員が理解し覚えることを前提として学校教育目標を策定している。そこから考えると、この案はあまりにも盛りだくさんと感じる。

(石川委員) 校訓や学校教育目標の位置づけはどんなイメージか。

<回答>(不來方高校菊池副校長) 校訓が不易の部分、学校教育目標は地域や生徒、時代の実状にあわせて変えていくものと考えている。

(石川委員) そうすると、校訓を第一義としてつくり、それに学校教育目標を策定するべきではないだろうか。

<回答>(不來方高校菊池副校長) 学校教育目標の策定が始まってから、校訓と学校教育目標の関わりについての課題が浮上し、小委員会としても策定順序に課題があることについて承知していた。そのため、校訓を踏まえて学校教育目標の修正の余地を残すこととしている。ご指摘のとおり校訓が第一義であると考えているので、校訓の策定と連動した修正も視野に入れている。

- ・今後修正の可能性は残るが、資料のとおり承認。

(3) 校訓の決め方（案）について（盛岡南高校副校長 村山薫美）

- ・資料を読み上げて提案。

(紀代理) 校訓の決定についての見通しを知りたい。

<回答>(盛岡南高校村山副校長) 第1回統合検討委員会で示したスケジュールの中で、第5回統合検討委員会で決定すると示しているが、学校教育目標の修正等があればそのスケジュールを変更することも考えられる。第3回の統合検討委員会でお知らせしたい。

- ・資料のとおり承認。

(4) スクール・ポリシーの決め方（案）について

- ・(安齊高校改革課長) 「いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031」の概要及びスクール・ポリシーの構成等について説明。
- ・(不來方高校菊池副校長) スクール・ポリシーの決め方（案）について資料を読み上げて提案。資料のとおり承認。

(5) その他

- ・協議題なし。

5 その他

- ・(不来方高校菊池副校長) 第3回統合検討委員会の検討内容について確認。第3、4回統合検討委員会の日程確認。

6 閉会 (事務局担当校 不来方高校副校長 菊池由美子)

※午後2時47分終了